

反則負けにならない場合（有効なアクション）

・両選手が立技から寝技に移行したことが明らかで、立技の動作が止まった場合に限り脚を掴んでもよい。



・取が両手でしっかりと組んで攻撃している場合、攻撃中に（取の腕が）受の脚に触れてもよい。



関節技

・場内で関節技・絞技がはじまり、その技の効果があると認識される場合、両者が場外に出ても継続させてよい。

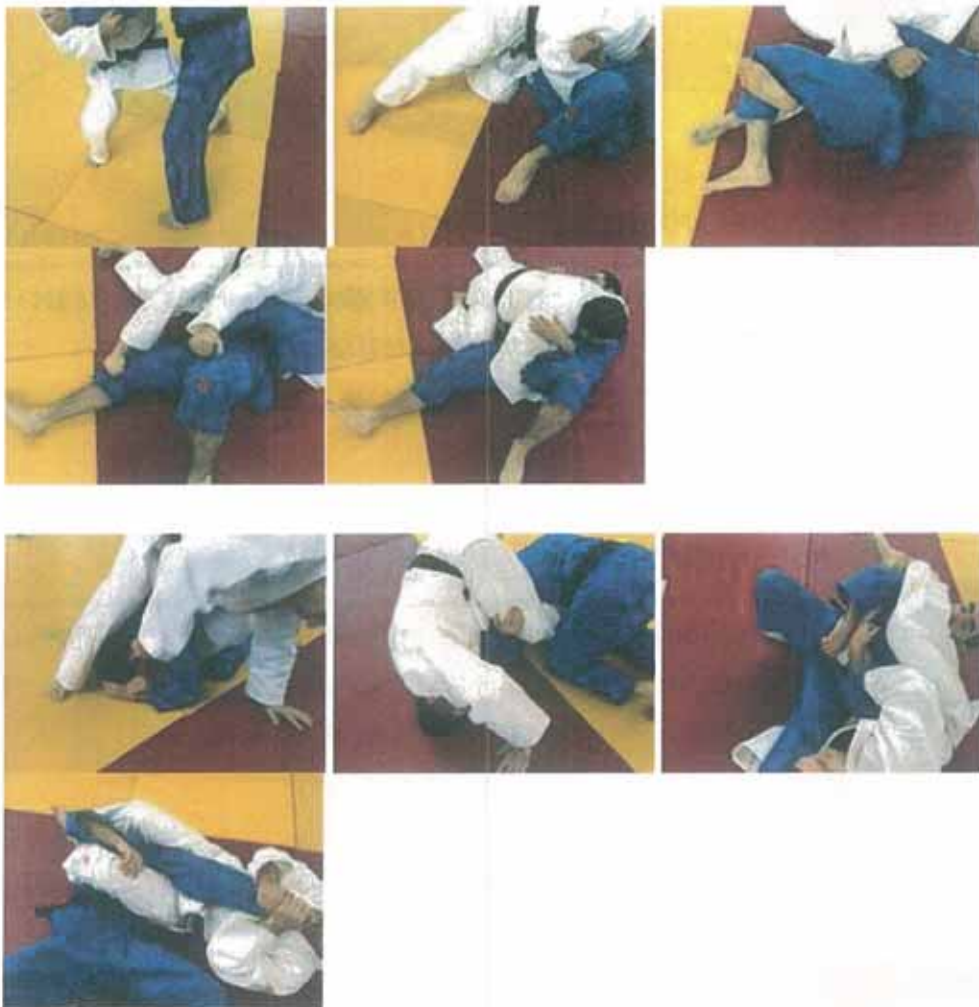


絞技



場内から始まったアクションが継続される場合

・場外で終わった投技が一本ではなく、どちらか一方の選手が直ちに抑込、関節技、絞技に移行した場合、この技は認められる。



肩三角グリップ

寝技の場合、肩三角グリップを行ってもよい。



(立技で) 肩三角グリップ (を施した場合) は指導



※2016/1/29-30 に行われた IJF 審判&コーチセミナーにおいてこの場合は「待て」をかけることとなった。

肩三角グリップで投げようとした場合、反則負け



※2016/1/29-30 に行われた IJF 審判&コーチセミナーにおいてこの場合は「待て」をかけることとなった。「待て」を無視して投げた場合は「反則負け」となる見解が示された。

寝技において、脚でブロック (相手を固定) し肩三角グリップを施すことは、脊椎の安全のため禁止する。



*アキレス IJF 審判理事からのメールによる補足

この場合、審判は非常に注意深く、そして十分に早い段階で止めなければならない。

この場合 (早い段階で止めた場合)、ペナルティは与えない。

相手の脊椎を痛めようと故意に攻撃した印象を審判員が持った場合のみ、反則負けを与える。

寝技の定義

(これが「寝技の定義の全て」ではなく、「寝技の定義の一部」、寝技の定義の一例です。)

両選手の両膝が畳についている場合、寝技とみなす。



立技の流れが途絶え、両選手の両膝が畳についた場合



組み合わず、一方の選手の両膝がついた場合

腹ばいになった場合、青の選手は寝技



立ち技の流れが途絶え、一方の選手が腹ばいとなった場合

白が組み手をコントロールしている場合、青も依然立技の状態であると考える。

白は直ちに攻撃がすることが出来、(投げた場合は)スコアになる。

青は投げられるのを防ぐために腕を使って白の脚を掴むことはできない。脚をつかんだ場合は、反則負けとなる。

但し、白が直ちに攻撃しなかった場合、主審は「待て」を宣告する。



白が擬装攻撃をした場合も主審は「待て」を宣告する